

視 察 報 告 書

報告者氏名：はまの まさひろ

委員会名：総務常任委員会

期 間：2020年1月20日（月）

視察都市等及び視察項目：

- ・横浜市：ユニークベニューの展開について

所 感 等：

直訳すると「特別な会場」。美術館や博物館、歴史的建造物、文化施設、公的空間等で、会議やレセプションを開くことで特別感や地域の特性を演出できる会場を指す。（コトバンク等参照）

国際会議等が大前提にあり、そのお客様の「おもてなし」が発揮できる「特別な会場」を持ち、十分な宿泊施設を有する都市が土俵に上がる資格があるのかなと私は思った。

横浜市の説明でも能楽堂、横浜美術館、三溪園という代表的な施設を例として紹介されたが、やはりパワーポイント、写真等での説明では雰囲気は掴めず、このようなテーマの視察は、ハードルは高いが実際にユニークベニューを展開している会場を視察することを望みたい。

課題としては、場違いなイベントによる文化的環境、文化的空間が損なわれることや、博物館、美術館でのイベントに伴い美術工芸品など展示物としての可動文化財を文字通り可動（移動）する機会が増えることにより棄損する確率が高まることを危惧する意見もある。（ウィキペディア参照）また特別な会場には、一般には開放していない施設もあることから、施設側の十分な理解を得ることが必要である。

特に気を引いたのは、国際会議後のユニークベニューとして「野毛おもてなしナイト」の開催は、本市の「ちょい飲み」とも重なり、大いに共感する企画である。

また、国際会議だけでなく国内企業が主催するインセンティブ旅行（報奨・研修旅行）の誘致は、横浜市でのビジネスチャンスもあり、社員のチーム力を高める効果があるという。大いに推進してもらいたい。

何れにしろ、他都市との競争も激化する中、どのような企画もお客様

と横浜市を結ぶ事業者の腕の見せ所であることは間違いなさそうだ。

さて、本市としては横浜市の真似は到底できず、ユニークベニユーを積極的に取り組む必要もないと思う。

本市において大いに期待するのは、株式会社 横浜アーティスト（昭和29年芸能人の斡旋事業者として創業以来、広告代理業、イベント企画・運営業、コンベンション事業、ホール・施設の運営管理業、警備業、地域活性化事業と業務範囲を広げ現在に至る。）が2019年に横須賀支社を設立してくれました。「ヨコスカ恐竜パーク2019」の開催は記憶に新しいが、横浜アーティストの企画である。

横須賀市観光協会の改革の大手術が始まろうとする中で、横浜アーティスト横須賀支社は無くてはならない存在である。今後の仕事に大いに期待し、出来る限りの支援をしていきたいと思えます。

以上、報告します。